

学んで話して楽しい にほんご教室

夢気球だより

「夢気球だより」編集部 発行

〒610-0121

城陽市寺田西ノ口7-4西邦ビル2階 城陽市国際交流協会内

電話 0774-57-0713

ご意見・投稿先 niciyama0323@gaia.eonet.ne.jp <西山雅文>



国際サロン

異文化理解って何？

ドイツの試行錯誤から日本のことを考えてみよう！

12月6日(土)に、ぱれっとJOYO委託事業「国際サロン」が22名の参加者で開催されました。(夢気球が企画実施)

今回は「異文化理解って何？」ドイツの試行錯誤から日本のことを考えてみようをテーマに同志社大学のベティナ・ギルデンハルトさんの講演。この整理された話を受けて、4つのテーブルでワークショップをしました。意見交換を深めました。今回、同志社大学グローバル・コミュニケーション学部4名の学生に進行役として協力していただきま

した。講演では、まず、ドイツの多文化社会における政策や歴史的経緯を話され、今日の課題、つまり「ドイツの文化」と言い切れない「ドイツにおける文化」と言わざるを得ない状況での文化を伝える難しさなどの指摘がありました。講師の文化的にとらえ方として、固定的に考えるのではなく、個人の事情に応じて、「文化」というリユース「文化」を抱えるという

「目に見えるもの、見えないもの」をきり口に意見交流に入った班は、圧倒的に見えな



白熱のワークショップ



並存社会の問題点

「マーク・アダムソンさん」

学習支援の終了に寄せて

三つに「マーク」マーク・アダムソン

はじめましてマークと言います。イギリスの出身です。私は3年半ぐらい城陽市国際交流協会日本語を勉強していました。城陽の先生のおかげで日本語が話せるようになりました。日本語の勉強は簡単なものではありません。



分の母語が話せない人に出会ったらちゃんと会話ができなはず。日本語の勉強は難しいですが本面に面白いものです。日本語を話すの言葉だけではなく自分の考え方も変えなければなりません。そういう勉強はきつといいことですよ。私はもう城陽学校を通じていけません。寂しいことですが私は滋賀県に妻と幸せに暮らしています。最後に言いたいのは私の先生は北尾と言います。北尾先生はずっと3年間以上頑張っています。私をよく電車の中にiPodで日本語の教科書のCDを聞いていました。その繰り返しで日本語はだんだん頭に入りました。もう一つは授業の時絶対に自分の母語を使わないでください。日本語だけで自分の気持ちを表さなければなりません。いつも自分の母語を頼っていたら自

彼の勉強の仕方には信念があり、最初の段階から「日本語脳」をつくることを大事にしていました。ノートも漢字を使って日本語で取っていましたし、媒介語は使用しないということも徹底していました。その信念が実を結んでいるのではないのでしょうか。

「マークさんの支援を終えて」

夢気球 北尾朋子

この10月に、3年半にわたるマークさんへの支援を終えました。彼は勉強熱心で、話す・聞く・読む・書くという四技能をまんべんなく学習しようという意欲にあふれ、実際に身につけてくれたと思います。使ったテキストは『みんなの日本語初級I・II』『みんなの日本語中級I』、その他関連副読本です。特に漢字に関しては本人の希望で『BASIC KANJI BOOK VOL1・VOL2』『INTERMEDIATE KANJI BOOK』も自習し、理解できない部分の解説や答え合わせを教室で行いました。この学習を通じて日本語のことばの成り立ちや背景にあるもの理解が深まったように思います。

分の母語が話せない人に出会ったらちゃんと会話ができなはず。日本語の勉強は難しいですが本面に面白いものです。日本語を話すの言葉だけではなく自分の考え方も変えなければなりません。そういう勉強はきつといいことですよ。私はもう城陽学校を通じていけません。寂しいことですが私は滋賀県に妻と幸せに暮らしています。最後に言いたいのは私の先生は北尾と言います。北尾先生はずっと3年間以上頑張っています。私をよく電車の中にiPodで日本語の教科書のCDを聞いていました。その繰り返しで日本語はだんだん頭に入りました。もう一つは授業の時絶対に自分の母語を使わないでください。日本語だけで自分の気持ちを表さなければなりません。いつも自分の母語を頼っていたら自

分の母語が話せない人に出会ったらちゃんと会話ができなはず。日本語の勉強は難しいですが本面に面白いものです。日本語を話すの言葉だけではなく自分の考え方も変えなければなりません。そういう勉強はきつといいことですよ。私はもう城陽学校を通じていけません。寂しいことですが私は滋賀県に妻と幸せに暮らしています。最後に言いたいのは私の先生は北尾と言います。北尾先生はずっと3年間以上頑張っています。私をよく電車の中にiPodで日本語の教科書のCDを聞いていました。その繰り返しで日本語はだんだん頭に入りました。もう一つは授業の時絶対に自分の母語を使わないでください。日本語だけで自分の気持ちを表さなければなりません。いつも自分の母語を頼っていたら自

ね！ JIEAや夢気球の皆様、特に津田先生と岸本先生、ご協力ありがとうございました。



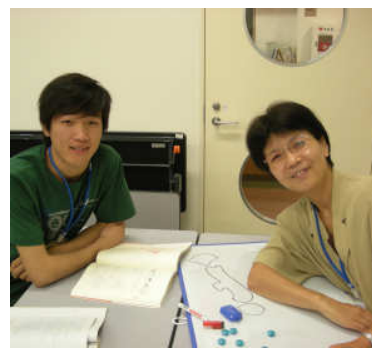
役員募集

現役員の任期満了に伴い新役員を募集します。応募に関する連絡は、杉島凱夫(代表)、片岡敬愛(庶務チーフ)のいずれかにお願います。

■募集人数 9名
■募集期間 2015年3月20日(金)まで
■役員の正式決定 第4回総会(2015年4月19日(日)の予定)における承認による

■任期 第4回総会開催日以降2016年3月31日まで(運営委員会)

教室紹介



今回は、ぱれっとJOYOで学習している岸本秀子さんと張凱さんの教室の紹介です。

Q 日本語支援を始めようと思った動機は何ですか。
A 日本語講師養成講座を習得して、何か地域に貢献できればと思っていたところ、「夢気球」の立ち上げを聞いて、日本語を通して地域在住の外国人との交流を深めて支援しようと思いました。

Q 支援は、楽しいですか。
A 張凱さんは、はじめはほとんど日本語が話せなく、また、私も中国語が解らず、戸惑いもありました。しかし、今では上達して、

私の話すことは、ほとんど理解して、聞き返されることは、ほとんどなくなりました。私も彼の上達ぶりや熱心さを見て、励まされることが、多くあります。
Q 感動したことは？
A 今、ぱれっとJOYOで学習している中国、ベトナム、インドネシアの実習生は仕事をしながら唯一の休みの日曜日に、熱心に日本語学習をしています。私たちがやりがいがあります。
Q 気をつけていることは？
A 支援者本位にならず、学習者の目線に立つて、学習者の気持ちに寄り添いながら、一緒に勉強しています。
Q 支援での悩みはありますか。
A 学習者が欠席するたびに私の教え方がまづいのではないかと考えてしまい、振り返ることがあります。
Q プラスになったことは？
A 相手の立場に立つて考えるようになり、私でも人に必要とされているという思いはとて嬉しく、人よりよく付き合える自信ができました。
(インタビューア 渋谷陽)

教室通信

ぱれっとJOYO(日曜クラス)では新しく7名の学習者と5名の支援者を迎え、熱気満々の中で18名の学習者が勉強しています。学習者(編集部)

は城陽市は勿論、京田辺市と宇治田原町の中国、ベトナム、インドネシア出身の若い実習生たちです。これからも新しい教室を随時お知らせしていきます。



ぱれっとJOYO(日曜クラス)学習風景